

～「市民が支えるNPO活動」パネル展開催にあたって～

パネル展にお立ち寄りくださりありがとうございます。

あの震災からもうすぐ2年になります。家族や友人を亡くされた方々、未だ避難生活を続けておられる方々、あるいはふるさとを離れざるを得なかった方々に、ここ岡山からも寄り添い、「共にいる」ことを伝えたいと思います。

「あの日」から私たちの何かが変わりました。今を大切に生きたいから、いろいろなことに無関心でいられなくなりました。近所のひとり暮らしのお年寄りや外国人家族のこと、夜コンビニにたまっている子どもたちのこと、仕事がない若者のこと、公園のごみや空き家の落書き、エネルギーの未来や紛争、世界の子どもの貧困…。私たちが暮らしているこの地域は、地球は、20年後、30年後、100年後も、温かく私たちの子どもたちを支える「ふるさと」でいてくれるでしょうか。

そう、この地域が「ふるさと」であり続けるために、私たち自身が動きはじめることが大切なのだと気付いたのです。私たち自身がこの市民社会、地域社会の主人公になること。「誰かが守ってくれる、誰かがする」と、無関心でいるのではなく、「誰かがしている」ことに関心を寄せる、私のできることを見出していくことに気付いたのです。

地域の課題は山積みで、地球の課題は果てしなく、「自分ひとりの力でなんて何もできないから」と無関心を装ってきたことを、もうやめ始めています。地域の課題は地域で解決する、地球の課題も地域で考える、そして、ひとりでできないことは、家族や地域や行政や、そして職場や学校や、いろいろな人たちとの協働がその糸口を見出させてくれる、自分自身が「協働」のパートナーであるとうまくいくこと、周りの人たちを協働のパートナーとしていくことを胸に刻み始めた「今」なのではないでしょうか。

本日のパネル展は、「市民が支える」という視点を中心に、NPO活動を紹介しました。市民の寄附文化の醸成を期待した「認定NPO法人制度」と岡山市の認定NPO法人、そして市民の支えあいの財団をご紹介します。また岡山市のNPO法人の活動と協働の提案を紹介しました。岡山市に広がる様々な市民活動の中から、ほんの一部をご紹介しますに留まっていますが、現代の課題、地域の課題に取り組む市民活動の一端を皆さんにお伝えできたらと思います。そしてそうした市民活動を市民自身が支える動きをお伝えすることで、市民活動への参加や支えあいの活動にご参加いただく機会となれば幸いです。

平成25年2月 岡山市